

<三谷市民活動助成事業：第3回報告 平成30年6月21日（木）13:00～16:00>

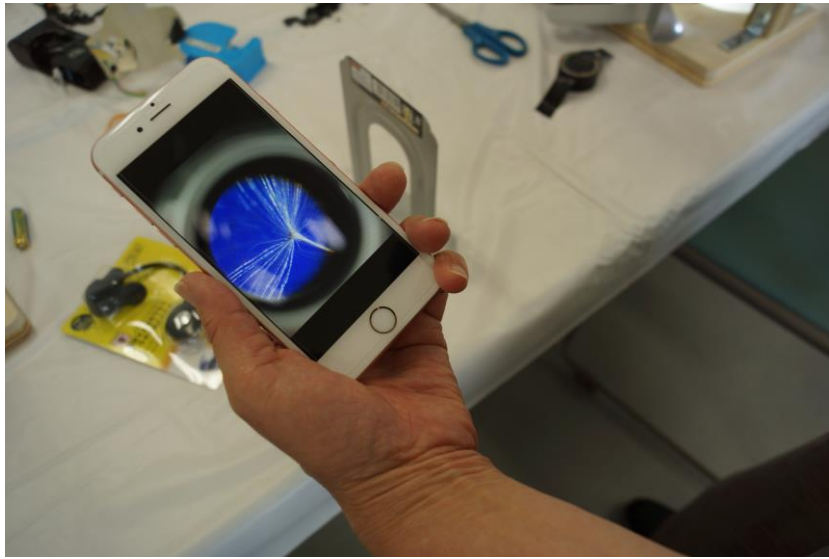
北陸地方で自然雪の顕微鏡観察をするためには、雪が融けないように、容器に雪(又はかき氷)と塩を混ぜて入れ低温を作り、基板を冷やして、その上に雪を載せて観察しなければなりません。通常の生物顕微鏡では、対物レンズと試料の間隔が狭く、その実験に適しません。今回の講習会では、対物レンズに使い捨てカメラのレンズを、接眼レンズに市販のルーペを使い、手作りで、安価に、雪の顕微鏡観察に適した顕微鏡を作りました。倍率は30倍です。組み立てたあと、花のめしべや、タンポポの種や綿毛を見ました。スマホで撮影したら綿毛にあるトゲがはっきり写りました。この講習会を地域の新聞が取材してくれました。



部品を組み立てて
顕微鏡を作る（対物レンズは使い捨てカメラのレンズ、接眼レンズは市販の15倍を使用）



出来あがった顕微鏡で
観察します。
ピント調節は、ネジではなく、磁石の力を利用
しています。



接眼レンズにスマホの撮影レンズを近づければ顕微鏡写真が撮れます。タンポポの綿毛のトゲが鮮明に写りました。

顕微鏡 手作り指導

福井で講習会 雪の結晶観察を

手作り顕微鏡で雪の結晶を観察してもらおうと、顕微鏡作りの講習会（NPO法人ふくい科学学園主催、日刊県民福井、中日新聞社後援）が二十一日、福井市のアオッサであった。八人が参加、ふくい科学学園の香川喜一郎理事長が講師を務めた。香川理事長は、接眼レンズと対物レン

ズの代わりに使い切りカメラのレンズとルーペ、鏡筒の代わりにクッキングラップの芯などを活用した顕微鏡の作り方を指導。使い切りカメラからレンズを取り出す際、感電しないように必ずゴム手袋を着用することをなどをアドバイスした。あわら市の主婦、下家佐知子さん（四）は、費用をか



けずと手作りできることに驚いた様子で「子どもにもしたい」と出来栄に満足していた。（大健太郎）

香川喜一郎理事長巻に教わりながら顕微鏡を組み立てる下家佐知子さん＝福井市のアオッサで

人雪の顕微鏡観察法指導員養成と普及、
（三谷市民活動助成金事業）

地元の新報、日刊県民福井、が講習会を取材してくれ、翌日の新聞に掲載されました。